



令和6年7月16日(火)発行

校長 栗原 友恵

北九州市小倉北区昭和町16番1号

HP: www.kita9.ed.jp/nakashima-e/

TEL: (093) 921-1690

<学校教育目標>

体・徳・知 調和のとれた心身ともに健康な子どもの育成

<目指す子ども像>

- 相手の立場に立って考える思いやりのある子ども
- すすんで学び、自ら考え、表現する子ども
- 元気に学び、すすんで運動に取り組む子ども

<目指す学校像>

- 安全な学校 ○温かい学校
- 笑顔があふれる学校
- 「中島小大好き」と言える学校
- 成長(学習)し続ける学校
- 保護者・地域・関係機関と連携する学校

むらさき川はかせになろう！ (3年生)

6月21日(金)、3年生が「総合的な学習の時間」の一環で、北九州市立水環境館に行きました。水環境館は、紫川や洞海湾について映像や展示物で楽しく遊ぶことができる、「水」をテーマにした体験型学習施設です。地下から紫川を直接見ることができる観察窓もあります。子どもたちは「むらさき川はかせになろう！」ということで、展示を観たり説明を聴いたりすることを通して、紫川の水の様子や生息する生き物や昔の紫川の様子についてたくさんのお話を学んで帰ってきました。

本城浄水場 & 皇后崎工場 (4年生)

6月25日(火)、4年生が社会科見学に行きました。先日のごみ出張授業体験に続く、『1 ごみはどこへ』『2 水はどこから』についての体験学習です。浄水場やごみ処理工場の施設を見学し、そこで働く方から聞き取り調査をしました。生活に欠かすことのできない水の確保や廃棄物の処理を調べる活動を通して、その確保や対策が北九州市によって組織的・計画的にされていることやごみの出し方など、私たちが守らなければいけない社会のきまりに目を向けることができました。

フッ化物洗口を実施しています (希望者)

「フッ化物洗口」とは、フッ化物の入った洗口液を口に含んで、1分間ブクブクうがいをする虫歯予防法です。北九州市は、虫歯のない児童生徒の割合が、政令市の中で最下位といった状況が続いています。この状況を改善するため、令和5年度より全北九州市立小学校で「フッ化物洗口」を希望者対象に実施しており、本校においても、毎週月曜日の朝自習の時間に行っています。

6月23日 沖縄慰霊の日

沖縄は6月23日(日)、「慰霊の日」を迎えました。最後の激戦地だった糸満市の平和祈念公園で「沖縄全戦没者追悼式」が営まれ、沖縄県立宮古高校3年の仲間友佑(ゆうすけ)さん(18)が「これから」と題した「平和の詩」を朗読しました。(以下が全文です。お時間があればお読みください。)21日(金)、中島小学校でも、亡くなった方のことを思い、平和な世の中をつくるために私たちにどんなことができるのか考えようと子どもたちに話をしました。

「これから」 沖縄県立宮古高校3年 仲間友佑

<p>短い命を知ってか知らずか 蝉が懸命に鳴いている 冬を知らない叫びの中で 僕はまた天を仰いだ</p> <p>あの日から七十九年の月日が 流れたという 今年十八になった僕の 祖父母も戦後生まれだ それだけの時が 流れたというのに</p> <p>あの日 短い命を知るはずもなく 少年少女たちは 誰かが始めた争いで 大きな未来とともに散って逝った 大切な人は突然 誰かが始めた争いで 夏の初めにいなくなった 泣く我が子を殺すしかなかった 一家で死ぬしかなかった 誰かが始めた争いで 常緑の島は色を失くした 誰のための誰の戦争なのだろう 会いたい、帰りたい 話したい、笑いたい そういくら繰り返そうと 誰かが始めた争いが そのすべてを奪い去る</p> <p>心に落ちた 暗い暗い闇はあの戦争の 副作用だ</p>	<p>微かな光さえも届かぬような 絶望すらもないような 怒りも嘆きも 失くしてしまいそうな 深い深い奥底で 懸命に生きてくれた人々が 今日を創った 今日を繋ぎ留めた 両親の命も 僕の命も 友の命も 大切な君の命も すべて</p> <p>心に落ちた あの戦争の副作用は 人々の口を固く閉ざした まるで 戦争が悪いことだと 言っではいけないのだと 口止めするように 思い出したくもないほどの あの惨劇がそうさせた</p> <p>僕は再び天を仰いだ 抜けるような青空を 飛行機が横切る 僕にとってあれは 恐れおののくものではない 僕らは雨のように打ちつける 爆弾の怖さも 戦争の「せ」の字も知らない けれど、常緑の平和を 知っている</p>	<p>あの日も 海は青く 同じように太陽が照りつけていた そういう普遍の中にただ 平和が欠けることの怖さを 僕たちは知っている</p> <p>人は過ちを繰り返すから 時は無情にも流れていくから 今日まで人々は 恒久の平和を祈り続けた 小さな島で起きた あまりに大きすぎる悲しみを 手を繋ぐように 受け継いできた</p> <p>それでも世界はまだ繰り返してる 七十九年の祈りでさえも まだ足りないというのなら それでも変わらないというのなら もっともっとこれからも 僕らが祈りを繋ぎ続けよう 限りない平和のために 僕ら自身のために 紡ぐ平和が いつか世界のためになる そう信じて</p> <p>今年もこの六月二十三日を 平和のために生きている その素晴らしさを噛みしめながら</p>
---	---	--